健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会　自己評価シート

プラン名	福岡柏原川流域里山整備プロジェクト			作成日	22 年 10 月 20 日
実施方法	☑ 単独　☐ ＪＶ	所属	中津川市森林組合	記入者	良雪憲雄

プロジェクトの対象・目的・内容

対象（誰を、何を）	目的（どういう状態にしたいのか）
低コスト木材生産システム、施業集約化への取組に応じたシステムづくりの構築	●優良生産林（大径木生産　最終500本／ha） ●準優良生産林（柱材生産 最終800本／ha） ●集約化を図るための境界明確化 ●高密路網整備（目標150m／ha） ●所有者還元を図るための中間土場設置

事業内容（どのような方法で、何を行うのか）

●地区座談会、「組合員だより」による普及啓発
●高密路網整備による低コスト化搬出
●中間土場によるＢ材の搬出及び小径木の直送
●作業路開設による環境影響を調査（水の濁度調査）

事業期間　平成 21 年度　～　平成 25 年度（　5　年間）

事業費　／　年度	モデル団地への国・県・市町村補助金投入額（平成21年度決算）　※職員人件費を除く					
	森林整備関係	搬出補助関係	機械導入関係	治山関係	保安林整備関係	その他
予算執行額（千円）	566,108.0	1,246.0				4,085.0
財源内訳　国・県費	566,108.0	1,246.0				4,085.0
財源内訳　市町村費	390.0					
財源内訳　一般財源						
財源内訳　その他						

事業実績

	成　果　指　標	単位	２１年度 計画	２１年度 実績	２２年度 計画	２２年度 進捗
①	施業集約化	ha	80.0	50.0	120.0	40.0
②	植栽	ha	0.0	0.0	0.0	0.0
③	下刈・除伐	ha	0.0	0.0	0.0	3.6
④	切捨間伐	ha	15.0	1.5	30.0	6.6
⑤	利用間伐	ha	21.0	9.4	46.0	15.0
⑥	主伐	ha	0.0	0.0	0.0	0.0
⑦	作業道開設（延長）　W= 3.0 ／ 3.6 m	m	1,260 ／ 2,450	1,897 ／ 2,023	1,538 ／ 1,480	2,450 ／ 1,670
⑧	作業道開設(開設コスト)　W= 3.0 ／ 3.6 m	円／m	3,000 ／ 8,000	1,436 ／ 7,752	2,900 ／ 8,000	1,600 ／ 7,300
⑨	木材生産量（モデル団地内）	㎥	1,260.0	1,017.0	2,760.0	1,480.0
⑩	木材生産量（モデル団地外）	㎥	220.0	337.0	0.0	16.8
⑪	木材生産性	㎥／人日	4.4	3.5	4.8	3.0
⑫	木材生産コスト（伐採～積込まで）	円／㎥	13,800.0	10,219.0	12,100.0	10,731.0
⑬	高性能林業機械導入	台	0.0	0.0	1.0	1.0
⑭	伐採専門チーム養成	チーム	1.0	1.0	0.0	0.0
⑮	森林所有者（組合員）への普及啓発/地区説明会開催	回	4.0	7.0	3.0	2.0
⑯	森林所有者（組合員）への普及啓発/組合員だよりの発行	回	1.0	1.0	1.0	1.0
⑰	地元小中学生を対象にした現地見学会の開催	回	1.0	0.0	2.0	1.0
⑱	作業道開設に伴う河川水濁度調査の実施	回	5箇所	5箇所　× 6回	4箇所	5箇所　×　5回
⑲	組合職員を対象とした研修会の開催	回	11.0	9.0	4.0	2.0
⑳	情報共有のための職員会議開催	回	23.0	23.0	24.0	12.0
(21)	プロジェクトの進捗管理会議（森プロ会議）	回	6.0	6.0	12.0	4.0
(22)	中間土場の実証調査（林業生産流通革新的取組支援事業）	式	1.0	1.0	0.0	0.0
(23)	施業プランナーの養成（研修受講）	人	0.0	0.0	1.0	1.0
(24)						
(25)						

補足説明

1 達成度

【 自 己 評 価 】

配点	３点	２点	１点
プロジェクトは当初計画どおり実施されているか	☐ 実施されている	☑ 一部未実施	☐ 実施されなかった
当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか	☐ 達成した	☑ 一部達成した	☐ 達成しなかった
進捗管理（定点観測等）は実施されているか	☐ 実施されている	☐ 一部未実施	☑ 実施されなかった

補足説明

●民有林における境界測量は３３４ha実施できた。地元の会合に出席しながら進めたため、森プロへの理解も得られた。
●利用間伐、伐捨間伐ともに目標面積を下回っている。事業地を点で行い、面で実施することが出来なかった。
今後は事業地の集約化を進め10ha程度のまとまりをもった団地を設定していきたい。

【 委 員 評 価 】

コメント

・別添フォローアップシート参照

2 成果

【 自 己 評 価 】

配点	３点	２点	１点
木材生産の拡大が図られているか	☐ 図られている	☑ 一部図られている	☐ 図られていない
森林環境(動植物等)の改善を確認できるか	☐ 大いに確認できる	☐ 一部確認できる	☑ 確認できない
山地災害発生を抑止する工夫ができたか	☐ 工夫できた	☐ 一部工夫できた	☑ 工夫できなかった

補足説明

●補助金に頼るところが大きいが、従来であれば伐捨間伐であったところを利用間伐にするなど、山を見てまず利用が可能かを第一に検討する考え方になった。
●作業路開設については、必要以上な路網密度や急勾配な線形、水処理の不備等、課題があった。本年度はこの問題の解決のための研修を受講し、身に付けた知識・技術を実践する。

【 委 員 評 価 】

コメント

・別添フォローアップシート参照

3 効率性

【 自 己 評 価 】

配点	３点	２点	１点
コストや業務量に見合った成果が得られたか	☐ 得られた	☑ 一部得られた	☐ 得られていない
効率的な実施体制で推進されているか	☐ 推進された	☑ 概ね推進できた	☐ 推進できていない
積極的に民間活力を活用しているか	☐ 活用できた	☑ 一部活用できた	☐ 活用できなかった

補足説明

●林産チームは各種研修会への参加や、幾つかの現場を通じて経験を積んで確実に生産性などが良くなっている。
●運搬については、民間を積極的に活用し、特に進入可能な場所では１５tを活用した。また、利用間伐では0.25m3クラスの作業機の使用が必要な事業地が１箇所あったためこのクラスの作業機で実績のある民間事業体に発注した。

【 委 員 評 価 】

コメント

・別添フォローアップシート参照

4 妥当性

【 自 己 評 価 】

配点	３点	２点	１点
地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか	☐ 反映している	☑ 一部反映している	☐ 反映していない
プロジェクトの計画内容(箇所･時期等)は適当であったか	☐ 適当であった	☑ 一部適当でなかった	☐ 適当でなかった
期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等）	☐ 養成された	☑ 一部養成された	☐ 養成されていない

補足説明

●利用間伐は主に定性間伐とし、伐採後の現地について地元の反応が良好であったため、新たな事業地の開拓に繋がった。
●施業実施箇所は点で行い、面で実施することが出来ていないため、一部非効率な現場があった。今後は集約化を進めることで作業効率を向上させる。
●研修を重ねることで知識は得られつつある。引き続き研修等には積極的に参加し、技術を習得する。

【 委 員 評 価 】

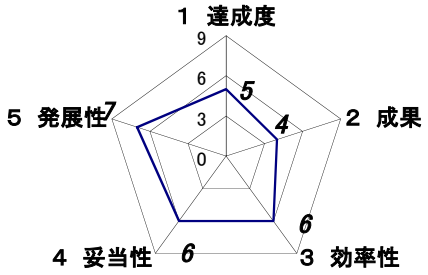
コメント

・別添フォローアップシート参照

5 発展性	【 自 己 評 価 】			
	配点	３点	２点	１点
	関係者(住民･所有者・従事者）の満足度は向上したか	□ 向上した	☑ 一部向上した	□ 向上しなかった
	選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか	□ 対応できた	☑ 一部対応できた	□ 対応できなかった
	上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか	☑ 余地がある	□ 一部余地がある	□ 余地がない
	補足説明	●地域住民に対しては、地区の会合での説明や、境界が明確になったことに対して評価はしていただいた。 ●研修等における指摘については、対応する努力をしているが、十分な対応までに至っていない。		
	【 委 員 評 価 】			
	コメント	・別添フォローアップシート参照		

自 己 評 価（集計）

評価集計	１ 達成度	２ 成果	３ 効率性
	5	4	6
	４ 妥当性	５ 発展性	合計点
	6	7	28
	総合評価	B	



総合評価：Ａ＝現状維持　　Ｂ＝充実・拡大　　Ｃ＝要改善

（配点区分：Ａ＝４５～３６点　　Ｂ＝３５～２６点　　Ｃ＝２５～１５点）

補足コメント	

フォローアップ委員会による総評

推奨方針（案）	□ 現状維持	☑ 充実・拡大	□ 要改善
コメント	・別添フォローアップシート参照		